

## ✠036 日本における聖書の歴史

日本における聖書の歴史は、1549年フランシスコ・ザビエル（1506–1552）が初めて鹿児島に上陸した時に持って来た日本語に訳された「マタイ福音書」に始まる（現在記録は残っていない）。

✠ **文語訳**（明治訳）・・・1887（明治20）年完成

✠ **大正改訳**・・・1917（大正6）年完成

新約聖書は、ヘボン、S.R. ブラウンを中心とする「翻訳委員社中」が、1874（明治7）年から翻訳を始め、分冊で順次出版し、1880（明治13）年に完成した。

その後改訳されて、「大正改訳」として、1917（大正6）年10月に出版された。

旧約聖書は、1878（明治11）年に「聖書常置委員会」を組織し、本格的に翻訳が開始された。翻訳には、欽定訳英語聖書、ブリッジマン・カルバートソン漢訳聖書などが参考にされた。

1887（明治20）年完成。これが、「明治訳」（元訳）と言われ、今でも「文語訳」として用いられている。

✠ **口語訳**・・・1955（昭和30）年完成

1951（昭和26）年4月、米、英両聖書協会の協力を得て、翻訳が始まった。この翻訳は、初めて日本人の聖書学者によってなされ、1954（昭和29）年に新約、1955（昭和30）年に旧約が完成した。

✠ **新共同訳**・・・1987（昭和62）年完成

1968（昭和43）年、聖書協会世界連盟（UBS）とローマ・カトリック教会の間で協議が成立し、プロテスタントとカトリックが同じ聖書を用いるための聖書翻訳の「標準原則」がまとめられ、世界各国で「共同訳」の翻訳が開始された。日本では、1970（昭和45）年、「共同訳聖書実行委員会」が組織され、翻訳がスタートした。

1978（昭和53）年『新約聖書 共同訳』が完成したが、その後、教会での使用を念頭に置いた翻訳に方針が変更された。こうして1987（昭和62）年9月5日、『聖書 新共同訳』が発刊された。

日本語の最初の聖書「ギュツラフ訳」から数えて150年、「文語訳」出版以後ちょうど100年目の年。

✠ **新翻訳**・・・2010年夏 翻訳事業開始

2009年12月の日本聖書協会理事会において、新しい翻訳事業を始めることが決定され、2010年夏より、翻訳作業が開始された。